

[First Hit](#) [Previous Doc](#) [Next Doc](#) [Go to Doc#](#)

End of Result Set

☐ [Generate Collection](#) [Print](#)

L20: Entry 1 of 1

File: JPAB

Feb 9, 1983

PUB-NO: JP358021961A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 58021961 A

TITLE: AUDIO REMOTE CONTROL CONFERENCE SYSTEM

PUBN-DATE: February 9, 1983

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

KAJII, YOSHINORI

HIRAYAMA, SHINJI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

FUJITSU LTD

APPL-NO: JP56120204

APPL-DATE: July 31, 1981

INT-CL (IPC): H04M 9/00

ABSTRACT:

PURPOSE: To increase the reliability of an audio remote control conference system and to increase the range of application of said system, by transmitting the speaker identification information of each station to a ground station and then displaying the speaker.

CONSTITUTION: The detection signal of the speaker voice of a station A is processed by a data feeding circuit 26. The identification signal of the circuit 26, the modulated 28 signal of the code number of the own station and the speaker identification information given from an amplifier 25 are multiplexed 27 with division of frequency and then transmitted. At a station B, the separated 51 speaker identification information is fed to a data output circuit 53 via a demodulator 54. The code number of each station and the identification signal are detected and fed to a display circuit for station A of a speaker identification display device 56 in the form of a parallel data. Thus the corresponding LED emits the light, and the speaker of the station A is identified.

COPYRIGHT: (C)1983, JPO&Japio

[Previous Doc](#) [Next Doc](#) [Go to Doc#](#)

① 日本国特許庁 (JP)

① 特許出願公開

② 公開特許公報 (A)

昭58—21961

⑤ Int. Cl.³
H 04 M 9/00

識別記号

庁内整理番号
7117—5K

④ 公開 昭和58年(1983) 2 月 9 日

発明の数 1
審査請求 有

(全 3 頁)

④ 音声遠隔会議方式

② 特 願 昭56—120204

② 出 願 昭56(1981) 7 月31日

⑦ 発 明 者 梶井芳徳

川崎市中原区上小田中1015番地
富士通株式会社内

⑦ 発 明 者 平山新治

川崎市中原区上小田中1015番地
富士通株式会社内

⑦ 出 願 人 富士通株式会社

川崎市中原区上小田中1015番地

⑦ 代 理 人 弁理士 松岡宏四郎

明 細 書

1. 発明の名称

音声遠隔会議方式

2. 特許請求の範囲

音声会議室内装設を複数地点に配置し電気信号を介して会議を行う音声遠隔会議システムにおいて、話者毎に割付したマイクロホンの入感を検出し、その検出信号によりデータ送出回路を起動し、発言者識別情報を音声周波数帯域内で、音声と周波数分割多重化して伝送し、対地局において発言者識別表示装置に発言者を表示することを特徴とする音声遠隔会議方式。

3. 発明の詳細な説明

本発明は音声遠隔会議システムに係り特に盲目会話を解消するための音声遠隔会議方式に関する。

従来の音声遠隔会議システムでは各地で話者はマイクロホンを介して発言しスピーカにて相手側の発言を聞き会議を行っている。この場合会議の相手側地点との間の使用回線は、音声周波数帯域(0.3kHz～3.4kHz)を用いた1回線であるの

で音声のみによる聴覚通信であり、面識の薄い発言者の場合は誤認し会議の信頼度を低下させる欠点がある。

本発明の目的は上記の欠点をなくするために発言者のマイクロホン出力を検出して発言者識別情報を対地局へ伝送し、対地局の発言者識別表示装置に表示することにより視覚情報も付与することによって信頼度の高い音声遠隔会議方式の提供にある。

本発明は上記の目的を達成するためにマイクロホン、スピーカ等の音声会議室内装設を複数地点に配置し電気信号を介して会議を行う音声遠隔会議システムにおいて、話者1人に1台を割付けした該マイクロホンの入感を検出し、その検出信号により発言者情報を入力すると共にデータ送出回路を起動し、音声周波数帯域内の音質に影響のない周波数帯域を利用した低速データにて、音声と周波数分割多重化して伝送し、対地局において発言者識別表示装置に発言者を表示し^よ認知をせるとを特徴とする音声遠隔会議方式である。

以下本発明の1実施例につき図に従って説明す

る。

図は本発明の実施例の音声遠隔会議システムのブロック図である。

図中11～14はマイクロホン、21～24は音声入力検出回路、25は音声増巾器、26はデータ送信回路、27は結合回路28は変調器、30は伝送路、51は分離回路、52は音声増巾器、53はデータ受信回路、54は復調器、55はスピーカ、56は発言者識別表示装置である。

図では代表例としてA局側は送信部、B局側は受信部のみを示しているが、実際はA局B局共に送信受信部を有しており又其の他の局と一緒に会議を行う場合は、各局の送信部の信号は並列に各局の受信部に接続されており各局のデータ送出回路には各局別のコード番号を持ち、又各局のデータ受信回路では各局のコード番号を識別して、発言者識別表示装置の各局別の発言者の場所へ表示を行うようになっている。

図に従って説明すると例えばA局のマイクロホン11を割付けされた話者が発言すると音声入力

される。音声は音声増巾器52を介してスピーカ55にてB局内に放送される。一方発言者識別情報は復調器54にて搬送波3315Hzにて復調されデータ出力回路53に入力する。データ出力回路53では局別のコード番号を検出すると共に送信されてきた「びびび」の信号を検出しこれを並列データとして発言者識別表示装置56のA局用の表示回路に送信する。これにより発言者識別表示装置56ではA局用の表示装置の、例えば発光ダイオードを「び」の信号の所のみ発光さす。これにより今発言している発言者はA局のマイクロホン11を割付けされた者であることが判る。

上記説明の結合装置27分離装置51で音声を3100Hzの低域通過波器でカットする如くしてあるがこれによつては音質には影響はない。

以上詳細に説明した如く本発明によれば各局別の発言者識別情報を対地局へ伝送し各対地局の発言者識別表示装置に各局別の発言者を表示するので視覚情報が付加され発言者が判るので音声遠隔会議システムの信頼度を向上すると共に利用範囲

検出回路21で検出されこの検出信号がデータ送出回路26に入力する。この時データ送出回路26は起動する。しかし音声入力検出回路22～24では音声入力を検出しないので検出信号はデータ送出回路26には入力しない。従ってデータ送出回路26は音声入力検出回路21側は例へば「び」と認識し22～24側は「び」と認識する。従つてこの「びびびび」の並列信号を直列信号とし自局のコード番号を付して変調器28にて例えば3315Hzの搬送波に乗せて結合装置27に送信する。一方マイクロホン11よりの音声信号は音声増巾器25を介して結合装置27に送信される。結合装置27は例えば3315Hzの帯域通過波器と3100Hzの低域通過波器からなっており、音声は低域通過波器側を通り発言者識別情報は3315Hzの帯域通過波器側を通して周波数分割多重化され伝送路30を介してB局の受信部に送信する。B局の受信部ではこの信号を分離回路51にて、結合回路27と同じく発言者識別情報は3315Hzの帯域通過波器を通り、音声は3100Hzの低域通過波器を通り分離

も拡大する効果がある。

4. 図面の簡単な説明

図は本発明の実施例の音声遠隔会議システムのブロック図である。

図中11～14はマイクロホン、21～24は音声入力検出回路、25、52は音声増巾器、26はデータ送信回路、27は結合回路、28は変調器、30は伝送路、51は分離回路、53はデータ受信回路、54は復調器、55はスピーカ、56は発言者識別表示装置である。

代理人 弁理士 松岡 宏四郎

